

令和3年度第1回庄原市初任者研修会

令和3年4月28日（水） 庄原市役所本庁舎 防災対策室

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭4名、中学校教諭5名、養護教諭1名】

【講話】「教職員としての在り方について」

庄原市教育委員会 教育部長 片山 祐子

ふるさと庄原を支え動かす役割を担っているのが、教育の力である。そのため、庄原市の教職員には、高い倫理性と人格性、市民の信頼確保が求められる。教職員の心得として、法令や社会規範の遵守（守る）、自己研鑽（高める）、子供や保護者、地域の信頼を得る（広げる）ことに努める必要がある。

（参加者の振り返りより）

- 教職員としての自覚と責任を改めて考えることができた。
- 学校の外で支えてくださっている方々のおかげで教育に集中することができていることに感謝を忘れない。

【講話】「児童・生徒と向き合う」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課長 東 直美



求められる教職員像として、教育的愛情と使命感、専門性など普遍的な事項と、授業力、コミュニケーション能力、挑戦する意欲など新たな「教育県ひろしま」の創造に向けて特に求められる事項がある。

自分が何気なく言った一言が、子供に影響を与えることがある。自分の信念は何かを問い、自分の言葉が子供の心に届いているか考えることが大切である。

（参加者の振り返りより）

- 何気ない教師の一言に対する責任を強く感じた。行動や発言を誰かに見られていると思うことが大切だと分かった。
- 子供たちは常に私の姿を見ているということを忘れてはならないと思った。

【講話】「児童生徒、保護者への適切な対応」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 砂走 敏和

「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を生かした授業を行う。児童生徒や保護者へ対応する際は、教育的愛情と誠意をもって、早期に対応する。一人で問題を抱え込まず、管理職や同僚へ報告・連絡・相談を行い、複数対応で誠意をもって取り組む。

（参加者の振り返りより）

- 生徒指導の三機能はよく耳にするが、具体的に授業でどのようにしていけばよいのかがよく分かった。
- 一人で判断することなく、周囲に相談することが重要であることを再確認した。



【講話・演習】「接遇マナー」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 管理主事 伊澤 知弥

接遇は、おもてなしの心をもって相手に接することである。

自分の言動は、いつも子供のモデルとなっていることを意識し、相手の立場に立った対応が大切である。



（参加者の振り返りより）

- 常に様々なことに感謝する心がけをすることで、普段の自分の対応を正すことができると感じた。
- 子供たちに指導していることが、自分にできているか、今一度確認する。